



平成 18 年 4 月 26 日 (水)  
バイオマスプロジェクトチーム  
(環境生活部資源循環推進課)

### 新年度の御挨拶

「バイオマス立県ちば」の推進への皆様の御理解・御協力に心から御礼申し上げます。

「資源循環型社会の構築」と「脱温暖化社会の構築」を推進するに当たり、バイオマスの利活用の必要性は今後ますます重要になると思われまます。2010年までにバイオマスタウンの中核となる施設の整備を支援し、10ヶ所程度の整備を目指していきます。

「バイオマス立県ちば」の一層の推進のため、今年度も御支援・御協力をお願い申し上げます。

バイオマスプロジェクトチームリーダー

## 1. 今年度の主な事業について

- 中核施設整備支援  
バイオマスの環づくり交付金を活用し、コンビニ系食品残さの飼料・エネルギー化の支援
- バイオマスプラスチック製品の普及促進  
バイオマス利活用フロンティア推進事業を活用し、植木ポット、卵パック、野菜袋等のバイオマス製品の普及を支援
- 市町村におけるバイオマスタウン構想策定の支援
- 山田町（現・香取市）におけるバイオリサイクル実証試験への協力
- バイオマス利活用実用化の促進（木質バイオマス等）
- 普及啓発  
シンポジウム・講習会の開催、各種イベントでの展示・広報等

## 2. 国の動向について

「バイオマス・ニッポン総合戦略」が見直されました。趣旨、内容は以下のとおりです。

- 趣旨  
2002年12月に、「バイオマス・ニッポン総合戦略」が閣議決定され、これに基づき、計画的な施策の推進を図られてきたところですが、この間において、2005年2月に京都

議定書が発効し、実効性のある地球温暖化対策の実施が喫緊の課題となるなど、バイオマスの利活用をめぐる情勢が変化しています。

このため、バイオマスの利活用の現状と課題の検証を踏まえ、新たな総合戦略を策定し、今後重点的に取り組むべき課題や施策を明らかにしました。

## ○ 内容

### (1) バイオマス輸送用燃料の利用促進

国が導入スケジュールを示し、エタノールなどのバイオマス輸送用燃料の利用に必要な環境を整備し、海外諸国の動向も参考としつつ、多様な手法を検討。特に、国産バイオマス輸送用燃料について、関係省庁連携による利用実例の創出、原料農産物等の安価な調達手法の導入、低コスト高効率な生産技術の開発により利用を促進。

### (2) 未利用バイオマス活用等によるバイオマスタウン構築の加速化

農作物非食用部、林地残材といった未利用バイオマス等の利活用モデルの構築、地域の取組を推進する人材の育成、バイオマス製品の需要拡大の促進等を行い、バイオマスタウンの構築を加速化。

### (3) その他

アジア諸国が進めようとしているバイオマスエネルギー導入の取組みへの関与等バイオマスの利活用をめぐる情勢の変化に対応した所要の見直しを実施。

「バイオマス・ニッポン総合戦略」全文は、バイオマス・ニッポンのHP (<http://www.maff.go.jp/biomass/index.htm>) に掲載されています。

## 3. 普及啓発活動について

### ○ なのはなエコフェア in 大多喜

3月18－19日、今年初めての開催となる「なのはなエコフェア in 大多喜」に千葉県からブースを出展しました。

このイベントには、環境問題に取り組む企業やNPO等が参加し、19日には約1500人が訪れました。



会場付近を走るいすみ鉄道

### ○ 日本フラワー&ガーデンショウ (幕張メッセ)

3月24－26日、今年で16回目となる「日本フラワー&ガーデンショウ」に県ブースを出展しました。

バイオマスプラスチック製の植木ポットの展示、そうさバイオマスプラスチック栽培組合の取組みを紹介しました。

来場者は3日間で約6万人でした。



千葉県コーナーの様